

鯉御殿とまり川村家番屋、武井邸客殿、石蔵と展示物の紹介(道央地区)..2  
第7回郷土学講座を行いました(道南ブロック) .....2  
平成28年度研修会を開催(日胆地区).....3  
オホーツクミュージアムえさしリニューアルオープンを終えて(道北地区)..3  
化石を通して地球や命の大切さを考える(網走管内).....4  
AR技術による文化財振興研修会を開催しました(道東3管内)...5

サケ稚魚の放流体験始まる(動物園・水族館).....5  
コラム本出版記念トークショーを開催します！(学芸職員部会)..6  
北海道立オホーツク流水科学センター活動報告(青少年科学館)..6  
イラストレーター・藤倉英幸さんの作品等1000点を受贈(美術館)..7  
イベント情報.....8  
事務局からのおしらせ.....10



JMMA (日本ミュージアム・マネージメント学会)大会のスナップより  
平成28年6月17日(金)～19日(日)、北海道大学ほかにて(写真は18日の発表と懇親会)

道央

## 鯨御殿とまり 川村家番屋、 武井邸客殿、石蔵と展示物の紹介

道央地区博物館等連絡協議会 NEWS

鯨御殿とまりは毎年4月中旬から11月中旬まで開館し、冬期間は休館しております。開館時間は9時30分から16時30分(入館可)までとなっております。泊漁港のすぐそばにあり、漁港の賑わいが間近にみられます。また、海に沈む夕日はとてもすばらしいロケーションとなっております。

その中に川村家番屋と武井邸客殿と石蔵が並んで建っており、住時を彷彿とさせて、見学者を迎えてくれます。川村家番屋は雇われ漁夫である若衆(やんしゅう)の生活の場である「漁夫だまり」と川村家の母屋が一体となった建物で、当時の鯨番屋としては珍しい造りとなっております。梁は分厚く、共和町開拓前の原生林から切り出した木材を使っています。土間を隔てて左側は漁夫だまり、右側は川村家の母屋になっており、30畳敷きの帳場部屋、18畳敷きの主人の居間、12畳敷きの家族の居間など広く豪勢に造られています。各部屋には村民からの寄贈による当時各家庭や番屋などで使われた伊万里焼の大皿、皿鉢(さばち)、どんぶり、茶碗、小皿、徳利、また輪島塗の御膳やお椀などを展示しております。2階には20畳敷きの客間があり、その押入れの奥には、「隠れ部屋」があります。ここは、強盗やよその漁夫とのもめごとなどに対処するための緊急の



鯨御殿

避難場所として使われていたようです。また、2階板の間には当時使われていた農具や、茅沼炭鉤の写真資料を展示しております。

武井邸客殿は回廊の埋込細工、欄間の透かし彫り、ビンロウジュや黒檀の床柱や床框、縁側の化粧部屋裏天井、大理石の沓脱石など、また、厠は伊万里焼の便器、天井は唐傘天井になっており、贅をこらした素晴らしい造りになっていきます。廊下づたいに渡って行く石蔵は柱の無い造りで、屋根の骨組は八方方杖合掌組工法を取り入れており、当時の技術を結集した工法であると思われます。石蔵内部には鯨漁場や鯨漁の仕方、武井家の紹介、武井家の大福帳や記録資料、鯨漁で使用された網や道具等貴重な資料を展示しております。

泊村教育委員会社会教育課 主事 渡辺亨

道南

## 第7回郷土学講座を行いました

道南ブロック博物館施設等連絡協議会 NEWS

平成28年11月12日(土)に函館市勤労者総合福祉センターで第7回目の郷土学講座を行いました。

今回は、考古学分野を取扱い「道南の考古学を知るー道南地域の旧石器から近代までー」というテーマで郷土学講座を行いました。

講座は、4名の講師で旧石器・縄文・中世・近世・近代の時代について、各30分程度の講義形式で行いました。各講師と講座名は、次のとおりです。

- ①「旧石器時代の環境と人々の知恵」  
宮本雅通(今金町教育委員会)
- ②「縄文のミカタ」山田央(七飯町歴史館)
- ③「道南の中世～安藤氏の退去から蠣崎氏の台頭」  
塚田直哉(上ノ国町教育委員会)
- ④「道南地方の近世・近代遺跡」  
前田正憲(松前町郷土資料館)

今回の郷土学講座の参加者は41名で、27名から

アンケートの回答を頂きました。結果は、以下のとおりでした(一部抜粋)。

【質問】講座のテーマは興味が持てましたか。

- |            |    |
|------------|----|
| ①持てない      | 0人 |
| ②あまり持てない   | 0人 |
| ③どちらともいえない | 0人 |



前田学芸員の講座の様子

④まあまあ持てる	16人
⑤持てる	19人
⑥無回答	0人

【質問】これからの「郷土学講座」について。

①参加したくない	1人
②あまり参加したくない	0人

③どちらともいえない	1人
④参加したい	9人
⑤ぜひ参加したい	10人
⑥無回答	6人

上ノ国町教育委員会 文化財 G 塚田直哉

日胆

## 平成28年度日胆地区博物館等 連絡協議会研修会を開催

日胆地区博物館等連絡協議会 NEWS

平成28年度日胆地区博物館等連絡協議会研修会が、11月10日(木)～11日(金)に洞爺湖町で開催されました。

開会式と1日目の研修会は、洞爺湖町役場3階防災研修ホールを会場にて開催し、2日目は洞爺湖町内施設の視察研修を行いました。

今回の研修では、博物館と体験学習について、3つの館園から発表をいただき、体験学習を行うことの意義とその課題について協議しました。

近年において、博物館における「体験学習」はますます重要になってきていると感じており、展示の理解を促す、あるいは展示が持つテーマに興味を持ってもらうため、またそれらのきっかけづくりに用いられる手段の一つとして、「体験学習」が持つ意味合いは大きなものと考えます。日胆地区では、自然、歴史、考古、美術など多岐にわたる分野の施設があるので、各館園においても体験学習の内容やその実施方法が異なります。そこで、分野の異なる施設より、どのような体験学習を行っているかを発表いただきました。

その後の研究協議では、あらかじめ返答いただいた研修用紙をもとに、各館においてどのような体験学習を実施しているか、紹介も兼ねて、その実施方法や課題について説明いただきました。体験活動を行っていない館園はなく、全ての館園が博物館のテーマに沿った体験活動を行っていることがわかり



開会挨拶をする藪中会長

ましたが、共通の課題として体験活動が一過性に終わってしまっていることや、少ないスタッフでの体験学習の実施、場所やスペースの不足などが認識されました。これらの課題をすぐに解決できるわけではありませんが、「何をどうやるか」だけではなく「それによって何を見せたいか、何を伝えたいか」が重要との意見も出され、活発な意見交換が行われました。

### 【事例発表者】

#### (1)「ポロトコタンでの体験学習」

アイヌ民族博物館 押野朱美 学芸員

#### (2)「博物館と体験活動について考える～豊浦町の事例紹介～」

豊浦町教育委員会 渡邊つづり 学芸員

#### (3)「日高山脈博物館の取り組み事例」

日高山脈博物館 東豊土 学芸員

洞爺湖町教育委員会社会教育課社会教育グループ  
学芸員 三谷智広

道北

## オホーツクミュージアムえさし リニューアルオープンを終えて

道北地区博物館等連絡協議会 NEWS

オホーツクミュージアムえさしは1年間にわたる改修を終え、昨年5月1日にリニューアルオープンしました。「オホーツク、太古からの歴史と自然」を展示の基本コンセプトにすえて、「自然系展示室」・「歴史系展示室」・「埋蔵文化財展示室」の3つのテ

マに分かれた展示室から、枝幸町の自然・歴史・文化を総合的に発信できる施設づくりを目指しました。展示面積は、約1,100平方メートルと、リニューアル前と比べ2.5倍に、また、展示資料の数も以前の約3倍の1,800点となり、たくさんの見どころを取り揃えました。

国指定重要文化財に指定されている204点にも及ぶ「オホーツク文化」の一大コレクションをはじめ、7mを越す国内最大級のシャチ骨格標本や、歌登地

区で発見された謎の絶滅哺乳類「デスモスチルス」の全身骨格化石、そして漁業や林業など町の歩みを伝える多彩な資料から、枝幸の魅力を紹介しています。

多くの方々が気軽に立ち寄れるよう、リニューアルを機に、観覧料を無料にしました。また、新しいミュージアムでは、館内のバリアフリー化を進めました。展示室内の段差を解消し、エレベータを取り付けることで、車いすの方が、自力ですべての展示を見て回れるように配慮しました。休憩スペースも多めに設けているため、立ち止まって一息つくこともできます。

これまで1年間の入館者数は5,000人前後でしたが、リニューアルした今年度は約1万人もの方々に来館していただくことができました。

今後も、なるべく多くの方々に利用していただけるよう、体験講座や地域の学校と連携した学習支援活動を中心に、「地域とともに成長できる博物館」づ



オープンしたての様子

くりを目指していきたいと考えています。

お近くにおいでの際は、気軽にミュージアムへとお立ち寄りください。

オホーツクミュージアムえさし 学芸員 白井平

## 網走

### 化石を通して地球や命の大切さを考える

網走管内博物館等連絡協議会 NEWS

紋別市立博物館では、学校法人紋別大谷学園、紋別教育文化振興会との共催により、特別展「化石～太古のロマン」を平成28年7月16日から8月28日まで開催しました。化石は、地域の子も達から要望がとて多かった展覧会のテーマでした。今回、化石研究者である紋別教育文化振興会の橘有三会長にご協力いただき、所有されている世界の化石資料より厳選された約150点を展示し、先カンブリア時代から現代に続く生命の歴史を紹介することができました。国内最大級と思われるモササウルスの頭骨や古生代デボン紀のアンモナイトなど、子どもから大人まで幅広い世代が楽しめるバラエティ豊かな展示構成となりました。

特別展の関連事業としては、橘会長より「楽しい化石の世界 40億年、生命の繋がり」と題して講演会と展示解説をしていただきました。また、全3回の『楽しい化石教室』では、国立科学博物館地学研究部環境変動史研究グループ長の重田康成博士による「大きなアンモナイトと小さなアンモナイト」「アンモナイトのレプリカ(模型)作り」、岐阜聖徳学園大学教授の川上紳一博士と化石研究者の小野輝雄先生



特別展「化石～太古のロマン」展示風景

による「海の暴れん坊！モササウルスに迫る」、三重県総合博物館館長の大野照文博士による「三葉虫と、三葉虫の生きていた時代」を実施しました。さらに、化石を描いた絵画を募集した「化石絵画展」では、応募のあった全作品を展示し、京都市立芸術大学名誉教授の鶴田憲次画伯に審査していただき、各賞の授賞式も行いました。鶴田画伯には絵画教室「化石を描く」でもご指導いただきました。その他、化石ショップや化石砂場、化石クイズなどの事業を行い、連日多くの皆様にお越しいただくことができました。期間中の入場者数は当館の特別展において過去最高の9,977人を記録しました。

紋別市立博物館 業務係長 小林健一

道東

## AR技術による文化財振興 研修会を開催しました

道東3管内博物館等連絡協議会 NEWS

平成28年11月2日に別海町郷土資料館にて、AR（拡張現実、Augmented Reality）に関する研修会を根室管内学芸職員研究会主催にて開催し、道東3管内博物館施設等協議会の加盟館の担当者や観光関係者を中心に19名が参加しました。標津町ポー川史跡自然公園の小野哲也氏が趣旨説明を行い、平成27年度まで北海道教育委員会で道内の文化財保護、活用推進に尽力された田才雅彦氏が、近年の道内における文化財を活かした「まちづくり」のあり方について講演されました。特に、有形、無形、指定、未指定に関わらず地域の文化財を幅広く捉え、把握し、文化財を総合的に保存、活用するための歴史文化基本構想の策定で検討すべき点を中心に講演され、文化財個別の保存活用を図る考え方から、広く面的に捉えて保存・活用しようという考え方へシフトしてきていることを指摘されました。

その後、凸版印刷株式会社東日本事業本部の佐藤真悟氏が、全国の史跡におけるARソリューションの導入事例を紹介し、ARアプリを使った方法や紙製のVRスコープとスマートフォンを組み合わせた



会議の様子

方法などのデモンストレーションを行いました。史跡公園でみられる竪穴住居の復元には1軒あたり1千万円程度かかり、維持もコストがかかっているということです。道東には、オホーツク文化や擦文文化の竪穴住居跡やアイヌ文化期のチャシ跡の塚や盛り土が地表から比較的観察しやすいため、景観や環境を変えずに現状の遺跡景観に情報を加えるARは、今後の遺跡や文化財の活用や他言語化への対応を進める上で、導入について検討すべき手法であると感じました。

根室市歴史と自然の資料館 猪熊樹人

動水

## サケ稚魚の放流体験始まる

動物園・水族館連絡協議会 NEWS

サケのふるさと千歳水族館は冬期の整備休館を終え、3月1日から春季オープンいたしました。同時に、リニューアル前から行っている人気の体験プログラム「サケ稚魚の放流体験」が、今年もスタートしました。

この体験の始まりは20年以上前、1996年のGWイベントに遡ります。当時、水族館の来館者数は、親ザケが遡上する秋に大きく偏っていました。そこで、他の季節にも多くの方に足を運んでいただきたいと、まずはサケ稚魚放流をメインとし、市民団体との春の共催イベント「サケ稚魚放流式」を開始したのです。いずれは秋の「インディアン水車まつり」と対をなす、春のサケ祭りへと拡大したい考えでした。その後、1日だけでは無くもっと長い期間実施して欲しいという要望が増え始め、「お祭り」は徐々に姿を変え、水族館の体験メニューとして、3～5月限定の「サケ稚魚の放流体験」になったのです。また、「サケ稚魚放流式」は毎年5月5日に実施している「サーモンフェスティバル」と名を変えて、現在も



サケ稚魚放流体験の様子

受け継がれています。

放流体験ではまず、この体験の目的が、人工ふ化放流事業の普及啓発にあることや、サケの回遊生態などの解説を行います。そして、コップに入れた稚魚をお渡しし、ご自身の手でサーモンパークを流れる小川に放流していただきます。5月31日までの毎日、11時と14時の2回実施していますので、稚魚の力強さを皆様ご自身の手で感じながら、ぜひサケの放流を体験して下さい。

サケのふるさと千歳水族館 学芸員 日原俊

## 学芸

コラム本出版記念トークショー  
を開催します！

学芸職員部会 NEWS

北海道博物館協会学芸職員部会設立40周年を記念して、昨年11月末に発行された『北の学芸員とおきの《お宝ばなし》』(寿郎社)。平成25年～26年にかけて、部会のウェブサイト「集まれ！北海道の学芸員」で51人が連載したコラムリレー第1弾を、ウェブ版から編集しなおし、出版社のプロの目で言い回しや表現を改め、文体を統一して読みやすく仕立てた本です。

この発売を記念して、4月1日(土)の15時から著者たちによるトークショーを紀伊國屋書店札幌本店1Fインナーガーデンで開催します。題して、「集合！北の学芸員 ―地域の謎を解き明かす博物館学芸員の仕事と喜び―」です。

司会を、栗原憲一氏(北海道博物館学芸員)が務め、森岡健治氏(平取町立二風谷アイヌ文化博物館・沙流川歴史館館長)・志賀健司氏(いしかり砂丘の風資料館学芸員)・齋藤和範氏(北海道教育大学旭川校博物館学非常勤講師)・持田誠氏(浦幌町立博物館学芸員)・大谷茂之(八雲町郷土資料館学芸員)の6名がパネリストとして登場予定。それぞれが書いたコラムの内容について紹介し、地域と博物館について、学芸員の仕事についてなどをトークする予定です。お時間のある方は、お誘いあわせの上ご来場いただ

## 科学

北海道立オホーツク流水科学  
センター活動報告

北海道青少年科学館連絡協議会 NEWS

北海道立オホーツク流水科学センター(以下、センターという)では、-20℃の厳寒体験室で流水やオホーツクの魚の「水族館」を展示し、ジオラマで流水の成長や動き、ガリンコ号がサハリン石油開発に伴う副産物であることが示されます。常時展示されているクリオネ水槽にはいつも多くの人が見入っています。科学教育に関する活動は1年中行われ、今年度の主なものを紹介します。

7月の「わくわく科学教室」は、中学・高校の先生や北見工大、網走地方気象台の方々により30の「科学屋台」ブースが出され、過冷却実験や赤外映像実験などが行われました。名物となった隕石愛好家の人による隕石を割って、参加者に隕石を配る行事には多くの人々が群がりました。今や遠紋地域では最大の科学イベントであり、今年度は1,189人の参加者がありました。

新刊発行! 読者の皆さまとおきの《お宝ばなし》―北海道で輝きたいモノを伝えたいコト。出版記念トークショー

# 集合! 北の学芸員

地域の謎を解き明かす博物館学芸員の仕事と喜び

北の学芸員とおきの《お宝ばなし》  
北海道で輝きたいモノを伝えたいコト

北海道の歴史や  
民衆にまつわる話

アイヌ語地名や  
アイヌ文化の話

さりげなく見せる  
自然環境の話

北海道にも息づく  
動植物の話

その他、  
本には書いていない  
裏話の盛りだくさん!

参加無料!

4月1日(土) 15:00より

場所 紀伊國屋書店札幌本店1Fインナーガーデン

北海道札幌市中央区南一条西5丁目1番10号(011-231-2131)

北海道博物館(学芸員)、北海道教育大学旭川校博物館学非常勤講師(学芸員)、平取町立二風谷アイヌ文化博物館(学芸員)、沙流川歴史館(学芸員)、いしかり砂丘の風資料館(学芸員)、齋藤和範(北海道教育大学旭川校博物館学非常勤講師)、持田誠(浦幌町立博物館学芸員)、大谷茂之(八雲町郷土資料館学芸員)

主催:寿郎社

トークショーチラシ

き、客席から盛り上げていただければと思います。

また、部会ウェブサイトでは、現在、第4弾コラムリレー「地域の謎を解き明かせ！学芸員の研究ノート」が連載中です。こちらも様々な分野の投稿がなされていますので、ぜひご覧ください。投稿をご希望の方は、部会員か否かに関わらず、大谷(s-oya@town.yakumo.lg.jp)までご連絡ください。

八雲町郷土資料館 学芸員 大谷茂之

8月の「わいるどトレック～野外体験を学ぶ～」は紋別の海岸でのビーチコーミングによって採集した漂着物、その工作物や写真パネルの展示を行いました。紋別市立オホーツク青年の家との共催事業でオホーツク海岸の環境保全活動の一環です。

10月の「空の探検家・武田康男展」ではオーロラや、富士山の吊るし雲、ウユニ湖の星空など世界の空の美しい光景を投影しながらの講演会を行い、その写真展を11月まで行いました。



「わくわく科学教室」の隕石割りイベント

2月には紋別市が毎年行う北方圏国際シンポジウムで各種の協賛事業を行いました。このシンポジウムは今年で32回目を迎え、流水に関する英語研究発表が約80件の他、「子供と親の流水シンポジウム」では、市内の全小学5年生に流水の不思議とアラスカの自然の話を行いました。紋別市内市民対象行事も多くあります。前センター長の故青田昌秋先生が長らく実行委員長を続けましたが、31回目から現センター長(高橋修平)が委員長を務めています。センターの協力事業としては、朝日新聞記者撮影の「南極写真展」と、長谷川奈生さんのジャズコンサートの開催、市内中学校2校の生徒による総合学習発表のコーディネートをを行いました。また教育関係者のワークショップで、札幌青少年科学館の松山氏、釧路こども遊学館の多胡氏、平塚市博物館の塚田氏を招き、全天候ホールが多目的活用と可能性をテーマ

に、事例発表とパネルディスカッションが行われ、さまざまなアイデアやご意見を頂きました。

北海道立オホーツク流水科学センター 高橋修平



教育シンポジウムでの子供達の発表

美術

## イラストレーター・藤倉英幸さんの作品等1000点を受贈

北海道美術館学芸員研究協議会 NEWS

有島記念館では、貼り絵で北海道各地の風景作品を多く描き、JR北海道車内誌表紙絵や六花亭菓子パッケージなどで北海道民に広く知られている藤倉英幸さんの作品原画や関連資料など約1000点以上を受贈することになりました。

藤倉さんは、1948(昭和23)年、後志管内岩内町生まれで、現在札幌に在住しております。高校卒業後、製菓会社などに勤めながらイラストレーションを独習。1974(昭和49)年に独立後、ポスター、カレンダー、パッケージなどのデザインを幅広く手がけてきています。70年代後半から切り絵を、80年代後半から貼り絵によって北海道の風景画を制作していました。現在までに切り絵や貼り絵の作品集が多く出版されるほか、2000年代以降は北海道内各地の美術館でも展覧会が開催され、これらを通して北海道の豊饒な風景の魅力を多くの人々に伝えてきました。

有島記念館が顕彰する大正期に活動した小説家・有島武郎は、幼少期より絵画を描いてきているほか、美術雑誌の性格も持ち合わせていた雑誌『白樺』同人であり、北海道の西洋美術史においても大きな足跡を残しています。また、自身の小説作品の挿絵や装丁を手掛けてきており、イラストレーターとしての活動も行ってきました。

このような有島のイラストレーターとしての仕事と藤倉さんの仕事との類似性、当館が立地するニセコ町における景観保全など風景を大切に作る町の姿



藤倉英幸『有島に吹く風』2012年

勢と藤倉さんの風景への想いの共通性、世界的にも稀な貼り絵の一大コレクションを形成できるという希少性などに鑑みて、受贈を決定しました。

当館では今後、作品や資料の整理を実施するとともに、作家への聞き取りなどを行い、後世に引き継ぐべき価値ある作品群としていきたいと考えています。受贈記念展は平成30年3月より開催予定です。

有島記念館 主任学芸員 伊藤大介

# イベント情報

会員館園の主な企画展と普及行事等 平成29年4月～6月

詳細は各館園にお問い合わせください

## 石狩

■小原道城書道記念美術館.....011-552-2100	
4/6～7/31	企画展「近代文学者の書展」
4/15	ギャラリートーク「文人交響」(北海道文学館 平原一良)
5/13	ギャラリートーク「北海道にある歌碑や文学碑を訪ねて」(毎日新聞 坂本智尚)
6/3	ギャラリートーク「北海道を愛した歌人たち」(北海道文学館 吉成香織)
7/22	ギャラリートーク「会津ハートと書」(小原道城書道美術館 宮田成生)

■北海道立近代美術館.....011-644-6881	
4/22～8/15	常設展【近美コレクション】 ・そして彼らは伝説になったー20世紀の芸術家たち ・小樽芸術村×近美 ガラスコレクション ・新収蔵品展
4/22～6/11	特別展「大原美術館展II」
4/22	展示解説「大原美術館展II」オープニングギャラリートーク
4/22	講演会「大原美術館展II」オープニング記念講演会
5/6・13・20	「大原美術館展II」学芸員による見どころ解説
5/13、6/10	【近美コレクション】子ども鑑賞ツアー
5/27	「大原美術館展II」特別講演会
6/22～8/15	特別展「レオナルド・ダ・ヴィンチと『アンギアーリの戦い』展」
各日曜	【近美コレクション】ミュージアム・トーク

■北海道開拓の村.....011-898-2692	
4/29～5/21	展示会「おもちゃと遊びの博覧会」
4/29	体験「大人のピンホールカメラづくり」
4/29・30、5/3～7	「大道芸人の実演」
5/3～5	体験「年中行事『端午の節句 ～兜づくり～』」
5/3～7	「大工さんのしごとと体験」
5/3・4	「畳職人の実演」
5/4・5	「菓子づくりの実演」
5/5・7	「写真館で記念撮影」
5/21、6/4	体験「むらの呈茶」
5/6、6/10	講座「たてもの観察会」
6/25	体験「伝統文化『いけ花～いけ花体験～』」

■北海道博物館.....011-898-0466	
4/22	自然観察会「エゾアカガエルの合唱を聞こう」
4/30	ミュージアムカレッジ「最新研究報告ー北海道と極東ロシアのシマフクロウ」
5/20	自然観察会「『あなたの街のコウモリの森』in野幌森林公園」
5/28	講演会「昆虫写真家 海野和男の生きもの写真のススメ」
6/4・25	ちゃれんがワークショップ「縄文土器をつくる」(全2回)

6/11	ミュージアムカレッジ「学校をつくるー近代北海道のアイヌ民族による小学校設置の取り組みー」
6/18	自然観察会「『北海道フラワーソン』に参加しよう!」

## 空知

■三笠市立博物館.....01267-6-7545	
3/22～5/14	企画展「北海道のアンモナイト サントニアンーマーストリヒチアン編」
4/29	体験学習「アンモナイトの秘密」
4/30	館内見学「バックヤードツアー」
5/3～7	体験学習など「化石博士になろう! 2017 GW」
6/18	野外観察「第1回自然観察講座」

## 後志

■一般財団法人荒井記念美術館.....0135-63-1111	
4/22～7/9	平成29年度ピカソ版画常設展I「くらべるピカソ」
4/22～8/20	平成29年度西村計雄常設展I「花らんまん」
■岩内町郷土館.....0135-62-8020	
4/11～5/21	企画展「郷土館お宝・珍品展パート3」
5/30～7/17	企画展「先史時代の岩内」
6月中旬	歴史ツアー「縄文遺跡と美術館を訪ねる旅」

■小樽市総合博物館.....0134-33-2523	
4/1～6/22	運河館トピック展「倉庫のハテナ プロローグ」
4/8	ミュージアムラウンジ「小樽のカモメを見分けてみよう」
4/8	プラネタリウム特別投影「水星」
4/8	星空観望会「水星と月を見よう!」
4/15・16	「屋外展示車両シートは必ず体験」
4/16	トピック展ギャラリートーク
4/22	協賛イベント「ぶっ飛び!円板紙トンボを作って飛ばそう!」
4/23	自然観察会「早春の山中海岸を歩く」
4/29～7/17	企画展「旧手宮線が伝えるものー小樽の鉄道史ー」
4月の土・日・祝	チャレンジラボ「プラバンキーホルダー作り」

## 渡島

■市立函館博物館.....0138-23-5480	
4/1～5/31	平成29年度収蔵資料展「本館開館とコレクション資料」
4/1～5/31	掛け軸展示体験
5/14	講座「春の美術鑑賞会 蠣崎 波響」
5/25	内部公開「博物館旧一号館公開」



6/13～8/28	企画展「能登川コレクション展ー肉屋の社長の考古学ー」
6/17・24	講座「鹿角で釣り針を作ろう」
6/25	学芸員こぼれ話「函館観光とアイヌ文化」

### ■北海道立函館美術館.....0138-56-6311

4/8～9/1	常設展「花鳥のながめー蠣崎波響から山口蓬春まで」
4/8～5/28	特別展「昭和の洋画を切り拓いた若き情熱 1930年協会から独立へー始まりはパリ。」
4/8	美術講演会「若き画家たちの情熱 1920s-30s パリから東京、そして北海道へ」
4/9・4/16	講座「波響ぐるっと4館ツアー」
4/22・29・30、5/6、6/24、7/1・8	ギャラリー・ツアー（4/30はファミリー・ツアー）
5/11	講座「アートとフレンチを味わう ランチ&トーク」
5/20	「特別展セミナー」
5/27	ハコビ・マジカル・ワークショップ「版画に挑戦!」
6/10～8/20	特別展「ニッポンの写実 そっくりの魔力」
6/10	ギャラリー・トーク「明治工芸の魅力」
7/2、8/5・20	合唱コンサート（7/2女声コーラストリル・8/5遺愛女子中学・高等学校音楽部・8/20函館MB混声合唱団）
7/22～8/20	ワークショップ「夏休みハコビ・アトリエ」
7/23・30	絵本のよみきかせ（函館絵本の会 銀のふね）
7/29	ハコビ・マジカル・ワークショップ「そっくりスイーツに挑戦!」

### 胆振

### ■室蘭市民俗資料館.....0143-59-4922

4/16	とんてん館寺子屋教室「しいたけ植菌」体験学習会
5/5	民俗資料館フェスティバル(予定)

### 日高

### ■平取町立二風谷アイヌ文化博物館.....01457-2-2892

4/1～5/31	企画展「エカンの記憶を辿って～昭和のアイヌのくらし～」
5/18	記念事業「国際博物館の関連事業」（無料入館と記念品贈呈）※20名以上の団体入館者を除く。

### 上川

### ■北海道立旭川美術館.....0166-25-2577

4/21～6/25	特別展「デンマーク・デザインの魅力 織田コレクションと旭川」
-----------	--------------------------------

### ■名寄市北国博物館.....01654-3-2575

4/7～16	企画展 及川幸雄・中田豪之助二人展「農民の視点」
4/21～5/7	企画展「野外植物展」
4/29～5/7	イベント「大型連休企画『博物館であ・そ・ぼ・う』」

5/13～6/4	企画展「チゴハヤブサとオオタカ」
5/14	「エンレイソウ観察会」
5月～12月	観察会 小さな自然観察クラブ（年7回実施）
6/4	「野鳥観察会」
6/9～25	企画展「北国風景画同好会『風花』作品展」

### 網走

### ■北海道立北方民族博物館.....0152-45-3888

4/15～5/25	ロビー展「寄贈資料展」
4/22	はくぶつかんクラブ「ロシアのチーズおやき」
5/6	上映会「北方民族映画館」
5/7	解説会「常設展展示解説会」
5/13	はくぶつかんクラブ「土器づくり」
5/20	観察会「博物館周辺の北の植物たち」
5/21	講習会「お細工物づくり」
5/28	施設見学会「道立オホーツク公園・北方民族博物館施設見学会」
6/3～7/2	ロビー展「カナダ・イヌイトの版画展」
6/3	講座「文字のない言葉を書く」
6/10	はくぶつかんクラブ「ビーズ織り」
6/17	講習会「白樺樹皮で作るバスケット」
6/18	講座「館長講座」

### ■北網走北見文化センター.....0157-23-6742

4/22～5/14	科学特別展「『錯視』で生活に潤いをもたす宇宙飛行士の部屋」
4/22～5/14	美術特別展「カナダ・イヌイトの版画展」
5/28	自然観察会「ワッカ原生花園を訪ねて」

### ■紋別市立博物館.....0158-23-4236

5/13	番屋講座「紋別公園の山菜と毒草を学ぼう!」
6/10	番屋講座「草花あそび」

### 十勝

### ■足寄動物化石博物館.....0156-25-9100

3/2～4/10	企画展「十勝と足寄の『ちようちよ展』」
4/1～6/30	体験活動「あしよ化石体験」
4/2	観察会「探鳥会1：春の水鳥たち」
5/14	観察会「探鳥会2：春の里山の鳥たち」
5/14	ワークショップ「石はみがくと玉になる」（「地質の日」協賛）
6/18	体験活動 あしよ化石教室「足寄動物群のふるさとをたずねる」

### ■帯広百年記念館.....0155-24-5352

4/8～5/7	ロビー展「五月人形展」
4/22	博物館講座「史料から見る晩成社3」
4/28～5/14	企画展「十勝の美術作家III『小室史 Art展』」
5/13	博物館講座「伏根安太郎、帯広に学校を作る」
6/3・10	博物館講座「レコードと音の文化史」
6/23～7/17	収蔵美術作品展「武田伸一 回顧展」

## 釧路

■釧路市子ども遊学館.....0154-32-0122	
3/25～4/5	企画展「春休みイベント『キミも今日から家事レンジャー★』」
4/1	天体観測会「アルデバラン食を見てみよう!」
4/29～5/7	企画展「GWイベント『木のおもちゃであそぼう!』」
5/20	天体観測会「木星観察だいさくせん!」

■釧路市立博物館.....0154-41-5809	
3/25～4/23	企画展「タンチョウイラスト展」
4/1・5/13・6/3	観察会「ハーバリウム霧多布」(於:霧多布湿原センター)
4/15・16	展示解説「ようこそ釧路へ」
4/16・5/21・6/18	観察会「春採湖畔探鳥会」
4/29～6/25	企画展「スゲの世界」
5/5	体験講座「博物館で遊ぼう」
5/20・6/17	観察会「春採湖畔草花ウォッチング」
6月上旬	歴史探訪会「まちなみ散歩」
6/10	観察会「調べてみよう春採湖の昆虫」

## 事務局からのおしらせ

## ■道博協ニュースにつきまして

事務局内での編集によるPDFでの刊行に変わって2回目の発行となります。まだ不慣れであり、至らぬ点があるかと存じますが、ご容赦くださいませ。よりよい誌面にするためのアイデアなどございましたら事務局までお寄せください。

## ■平成29年度の事業予定につきまして(再掲)

平成29年度の大会およびミュージアム・マネージメント研修会につきましては、下記のとおりです。

第56回北海道博物館大会.....日程:7月6日(木)～7日(金)  
会場:帯広百年記念館(帯広市)

平成29年度ミュージアム・マネージメント研修会.....日程:10月中旬(予定)  
会場:羅臼小学校(羅臼町)

## ■会費納入のお願い

当協会の活動は、会員の皆様の負担金(会費)で運営されています。年会費は、団体会員15,000円、賛助会員20,000円、個人会員3,000円です。以下の口座までお願いいたします。(振込手数料はご負担下さいますようお願いいたします。)

【銀行口座:北洋銀行厚別中央支店(普)0287000 北海道博物館協会会長 石森秀三】

または【郵便振込口座:02770-2-29419 北海道博物館協会】

■北海道博物館協会ホームページ <http://www.hkma.jp>

当協会と加盟博物館園の情報ならびに各館園の連携・協力関係を深めるために、主に博物館関係者を閲覧対象として、博物館大会の案内、ニュースの発行や公募・助成情報などを掲載しています。

■学芸職員部会ホームページ「集まれ!北海道の学芸員」 <http://www.hk-curators.jp>

学芸員が所属する博物館園ならびに個人の活動情報・研究成果等を発信し、広く各館園の利用促進と学芸活動の理解を図るための普及と広報のHPです。「北海道で残したいモノ、伝えたいモノ」をテーマにさまざまな学芸員が記事を投稿する「コラムリレー」、WEBサイトのほか、Facebookページ、Twitterアカウントも開設しています。

道博協ニュース 第119号

発行日 2017年3月31日  
発行者 北海道博物館協会

北海道博物館協会事務局  
004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌 53-2 北海道博物館内  
電話:011-898-0456  
メールアドレス:dohakukyo.jimukyoku@gmail.com